

CLIPPEDIMAGE= JP359018073A

PAT-NO: JP359018073A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 59018073 A

TITLE: INSTRUMENT PANEL FOR AUTOMOBILE

PUBN-DATE: January 30, 1984

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

OIKAWA, AKIO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

NISSAN MOTOR CO LTD

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP57125876

APPL-DATE: July 21, 1982

INT-CL (IPC): B62D065/00

US-CL-CURRENT: 180/90

ABSTRACT:

PURPOSE: To permit an instrument panel to be installed to an instrument stay with installation error absorbed, by temporarily installing the panel to the stay in such a manner that the former is allowed to move in right and left directions relative to the latter.

CONSTITUTION: In temporary installation of an instrument panel, a pawl 7 is inserted into an aperture 10, and then a location hole 8 is engaged with a pin 12. Then, an instrument stay S is slightly sifted outwardly in the right and left directions to engage a guide hole 9 with a guide member 13. Under such a temporary installation, the aperture 10 and the location hole 8 are elongated in

the right and left directions, and accordingly the guide member 13 is allowed to slide along the guide hole 9 in the right and left directions, resulting in permission of a right and left movement of the instrument panel P relative to the instrument stay S. Then, an associated parts such as a duct d, a radio and a deck r are mounted to the instrument panel P as temporarily installed, and the panel P with the stay S are fixed to automotive bodies 2 and 3.

COPYRIGHT: (C)1984,JPO&Japio

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—18073

⑤Int. Cl.³
B 62 D 65/00

識別記号

庁内整理番号
6927—3D

⑬公開 昭和59年(1984)1月30日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 6 頁)

⑭自動車用インストルメントパネル

自動車株式会社テクニカルセンタ
ー内

⑯特 願 昭57—125876

⑰出 願 人 日産自動車株式会社

⑱出 願 昭57(1982)7月21日

横浜市神奈川区宝町2番地

⑲発 明 者 及川昭穂

⑳代 理 人 弁理士 丹羽宏之

厚木市岡津古久560—2 日産自

明 細 書

1. 発明の名称

自動車用インストルメントパネル

2. 特許請求の範囲

左右一対のインストルメントステイとパネル本体とより成り、前記インストルメントステイは、上端部から上方へ突出した爪と、その下側に位置して前後方向へ開口した左右に長いロケット穴と、下端部に位置して左右方向の内側へ開口したガイド孔とを備え、前記パネル本体は、前縁フランジ部に、前記爪を挿入する左右に長い爪差込み穴と、前記ロケット穴を嵌めるロケットピンを、センターパネル部に、前記ガイド孔を左右方向の外側から嵌める同方向の外側へ突出したガイド片をそれぞれ備え、かつ前記爪は前記爪差込み穴に挿入し、前記ロケット穴は前記ロケットピンに嵌め、前記ガイド孔は前記ガイド片に嵌めて、前記パネル本体と前記インストルメントステイとを左右方向へ相対移動可能に仮組み付けたことを特徴とする自動車用インストルメントパネル。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、自動車用インストルメントパネル、特に該インストルメントパネルのパネル本体とインストルメントステイとを車体に組み付けて固定するまでの間、両者を仮に組み付けるための仮組付構造に関する。

従来のこの種の仮組付構造に相当するものは認められない。従つて、インストルメントパネルを構成するパネル本体とインストルメントステイとを車体に組み付ける場合は、まずエアコン用のダクトを車体に取り付け、ついでこの車体と、車体に先付けした左右一対のインストルメントステイとに、パネル本体を組み付けて固定している。

第1図および第2図は、この組付構造の一例を示したものである。

これは、最初にダクト1を車体たるダッシュパネル2に取り付け、ついで同じく車体たるフロアパネル3にネジ5で先付けしダッシュパネル2にネジ6で後付けした一対のインストルメントステイS、と、前記ダッシュパネル2とに、ヒーター

コントロールc、ラジオ、デツキ類x、ハーネスh等の部品を搭載したパネル本体P₁を組み付けて前記ステイS₁にネジ6a、6a、…で固定する構造になつている。

なお、4はインストルメントステイS₁とパネル本体P₁をダッシュパネル2に取り付ける際のブラケット、uはヒーターユニットである。

ところが、この構造には、ラジオ、デツキ類x等の部品を搭載したパネル本体P₁を、先付けしたインストルメントステイS₁に組み付ける構造となつているので、車体に組み付ける際、搭載した部品がインストルメントステイS₁と干渉するおそれがあり、該干渉によつて破損し、それらを充分に保護できないという問題がある。

上記問題が生ずるのは、インストルメントステイS₁を先付けして車体の組付け誤差をあらかじめ吸収し、パネル本体P₁を組み付けたときの車体との合いをよくしなければならないからである。

つまり、インストルメントステイS₁を先付けしないで、パネル本体P₁に取り付けてから車体

まず構成を説明する。

Sは左右一対のインストルメントステイ(第3図では左側を示す。)であつて、7はその上端部から上方へ突設した爪(第3、4図)、8はその爪7の下側に設けた前後方向へ開口した左右に長いロケット穴(第3、5図)、9はその下端部の後面にフランジS aより後方に突出した膨出部S bに左右方向の内側へ開口させて設けたガイド孔(第3、6、7、8図)である。

Pはパネル本体であつて、10はその前縁フランジ部11に設けた前記爪7を挿入する左右に長い爪差込み穴(第3、4図)、12は同じく前縁フランジ部11に設けた前記ロケット穴8を嵌めるロケットピン(第3、5図)である。13はパネル本体Pのセンターパネル部14に、前記ガイド孔9を左右方向の外側から嵌められるように、左右方向の外側へ向けて突設したガイド片(第6、7、8図)である。

このガイド片13は、ガイド孔9に対して左右方向へ相対移動し得るだけの長さにしてある。し

て後付けすると、搭載部品のステイとの干渉は避けられるが、インストルメントステイS₁とパネル本体P₁との相対位置が決定されてしまつて、前記インストルメントステイS₁を車体に組み付けたとき、パネル本体P₁と車体との合いがうまくいかなくなり、車体の組付け誤差を吸収できないことになるからである。

この発明は、このような従来の問題点に着目してなされたもので、パネル本体とインストルメントステイを、車体に組み付ける前に、左右方向へ相対移動可能に仮組み付けする構造とすることによつて、上記問題点を解決することを目的とする。

以下、この発明を第3図ないし第9図に示す実施例によつて説明する。

第3図は、この発明によるインストルメントパネルとインストルメントステイの仮組付構造と、それらの車体への組付要領を説明するための断面図で、第2図に対応するものである。第4図ないし第9図は第3図における仮組付構造の要部拡大図である。

かし鉤部kのある舌片13aを備えていて、上記鉤部kがガイド孔9に引掛かるようになつている。従つて、インストルメントステイSは、第6図のように、矢符m方向へ備かに廻さなければガイド片13から外れないようにしてある。

dは、パネル本体PとインストルメントステイSの間に配管したダクトである。

17と18は、それぞれインストルメントステイSとパネル本体Pにあけたルーズな穴で、これにネジ19を挿入してブラケット15に螺入すると、両者S、Pをそのブラケット15に固定できるようになつている。

20は、インストルメントステイSをフロアパネル3に取り付けるためのネジ穴である。この穴20にネジ14を挿入し、前記フロアパネル3のウエルドナット16に螺入すれば、取り付けられるようになつている(第9図)。

21は、パネル本体Pのセンターパネル部14に設けたルーズな穴で、これにネジ22を挿入してインストルメントステイSのネジ穴23に螺入

すれば、両者P、Sを一体に固定できるようになっている。

次に作用を説明する。

まず、インストルメントステイSをパネル本体Pに仮組み付けする。仮組み付けにあつては、爪7を爪差込み穴10に挿入してからロケット穴8をロケットピン12に嵌め、ついでインストルメントステイSを左右方向の外側へ少し振つてガイド孔9をガイド片13に嵌める。

仮組み付けした状態では、上記爪差込み穴10とロケット穴8とは左右に長い長穴であり、ガイド片13はガイド孔9を左右方向へスライドするので、上記インストルメントステイSとパネル本体Pは左右方向へ相対移動する。

次に、仮組み付けしたパネル本体Pにダクトd、ラジオ、デッキ類e等の部品を搭載し、インストルメントステイSとともに車体2、3に取り付ける。

車体に取り付けるに際しては、まずフロアパネル3にインストルメントステイSを、そのネジ穴

けして構成したので、インストルメントステイは、パネル本体に仮組み付けしてから車体に後付けし、パネル本体は、左右へ移動させながら車体に、その組付け誤差を吸収しながら、組み付けることができる。従つて、従来のように、先付けのインストルメントステイがあるため、これとパネル本体の搭載部品が干渉して、破損するといつたおそれはないという効果を有する。

尚、ダクトをパネル本体とインストルメントステイの間に配管するようにすると、パネル本体を後方へ大きく曲げる必要がなくなるので、インストルメントステイの剛性が大きくなり、パネル本体の搭載品が車体の振動等でぶれるようなことはなくなる。

又、ダクトをパネル本体とインストルメントステイの間に配管することにより、ダクトの通るスペースを従来より大きくとることができるので付言しておく。

4. 図面の簡単な説明

第1図は従来の自動車用インストルメントパネ

20において、ネジ14aで固定し、ついでパネル本体Pを左右方向へ移動させながら、そのフランジ部11とダッシュパネル2のブラケット15の位置合わせをし、しかる後ネジ19で固定する。

以上説明したように、この発明の仮組付構造は、左右一対のインストルメントステイとパネル本体とより構成し、前記インストルメントステイには、上端部から上方へ突出した爪と、その下側に位置して前後方向へ開口した左右に長いロケット穴と、下端部に位置して左右方向の内側へ開口したガイド孔とを設け、前記パネル本体には、前縁フランジ部に、前記爪を挿入する左右に長い爪差込み穴と、前記ロケット穴を嵌めるロケットピンを、センターパネル部に、前記ガイド孔を左右方向の外側から嵌める同方向の外側へ突出したガイド片をそれぞれ設け、かつ前記爪は前記爪差込み穴に挿入し、前記ロケット穴は前記ロケットピンに、前記ガイド孔は前記ガイド片にそれぞれ嵌めるとことによつて、前記パネル本体と前記インストルメントステイとを左右方向へ相対移動可能に仮組み付

ル構造を説明するための説明図で、同図(a)はインストルメントステイの斜視図、同図(b)はパネル本体の斜視図、第2図は同じく従来の上記組付構造を示す断面図、第3図はこの発明の自動車用インストルメントパネル構造を示す断面図、第4図は第3図のIV矢視拡大図、第5図は第3図のV-V断面拡大図、第6図は第3図のVI-VI断面拡大図、第7図は第6図の分解斜視図、第8図は第6図のVII矢視拡大図、第9図は第3図のIX-IX断面拡大図である。

S …… インストルメントステイ

P …… パネル本体

7 …… 爪

8 …… ロケット穴

9 …… ガイド孔

10 …… 爪差込み穴

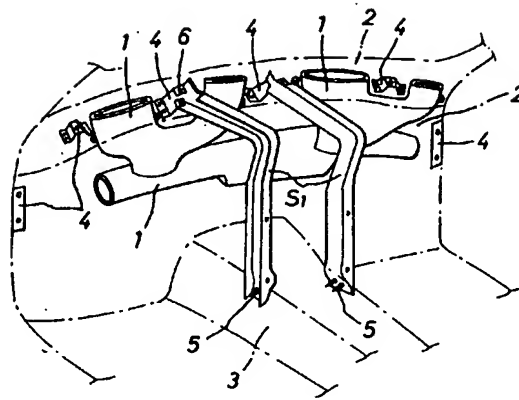
11 …… 前縁フランジ部

12 …… ロケットピン

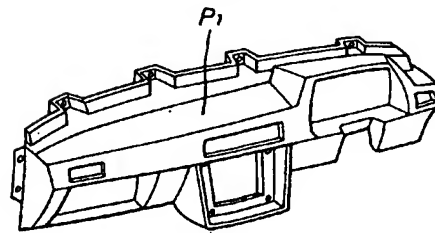
13 …… ガイド片

14 …… センターパネル部

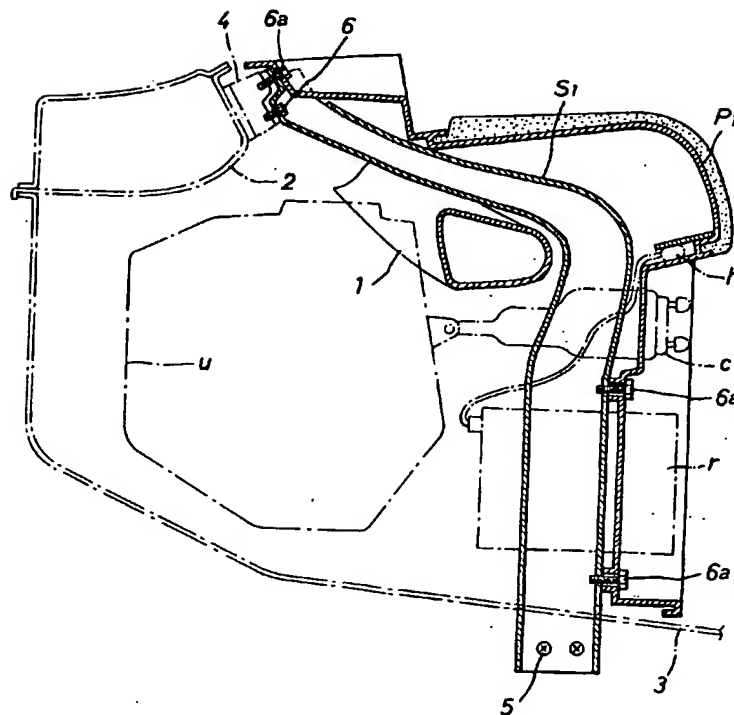
第 1 圖
(1)



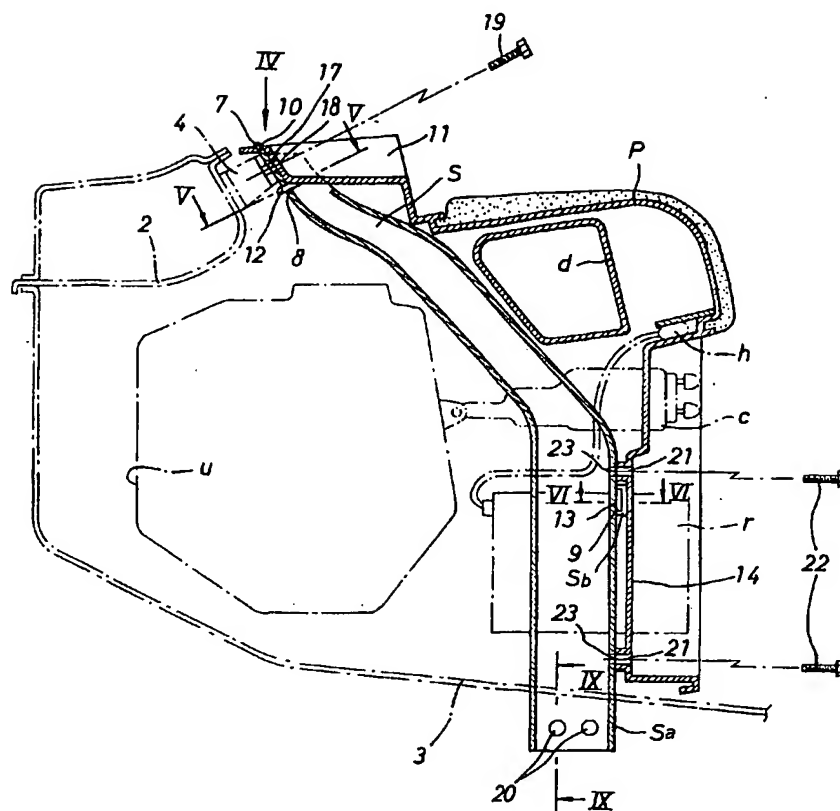
(2)



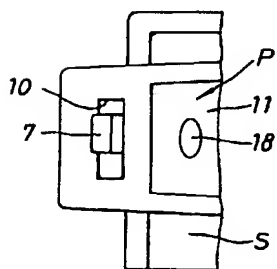
第 2 圖



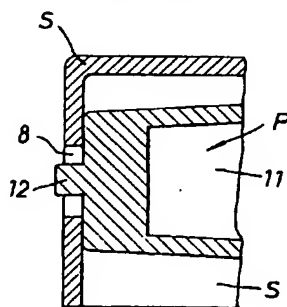
第 3 図



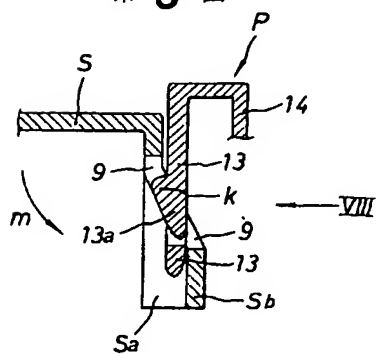
第 4 圖



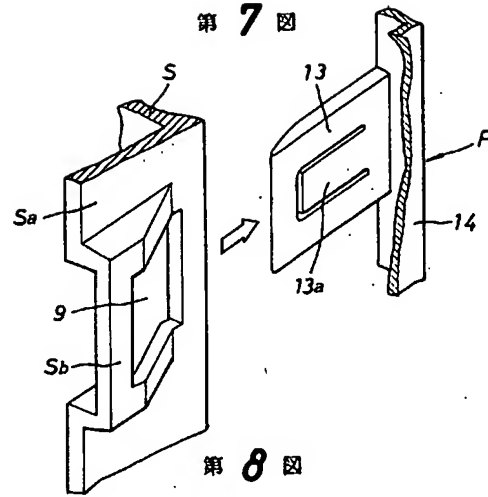
第 5 図



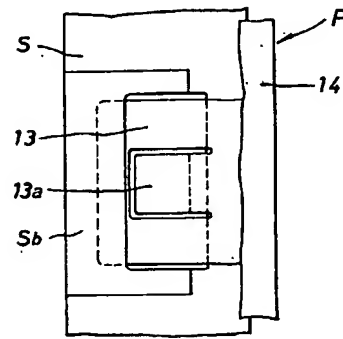
第 6 函



第 7 図



第 8 図



第 9 図

